状　況　写　真

区分	任意

串間 営林署

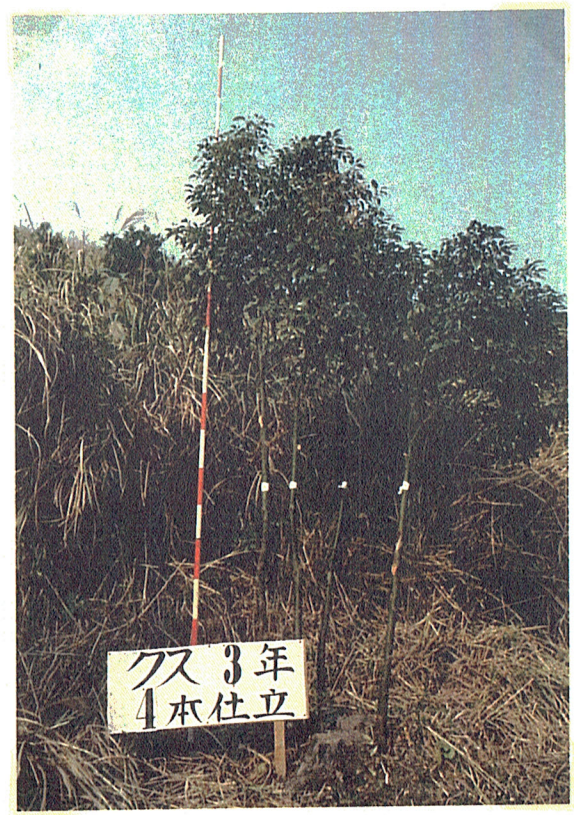
（様式６）

（様式６）

状　況　写　真

区分	任意

串間　営林署



（様式６）

状　況　写　真

区分	任意

串間　営林署

（様式６）

状　況　写　真

区分	任意

串間　営林署

様式2

平成元年 技術開発実施報告・~~計画~~

課題	広葉樹優良林分を造成するための施業法	継続・~~新規~~	担当	造林課	開発箇所	串間
目的	天然広葉樹皆伐跡地における，有用広葉樹（クス，タブ，カシ類）の用材林育成方法の確立をはかる。	~~指示・自主~~ 任意				
		開発期間	昭和61～平成2年			

年度別実施経過	元年度 実施報告	元年度 実施計画	備考（評価及び普及計画等）
	1. 平成元年12月 (1) 生長量調査 （別紙 表－2） 2. 平成元年10月 平成元年度林野庁業務研究発会において発表（中間） 事業費（技術開発）＿＿＿＿千円	1. 調査計画なし （最終年度の平成2年度に，調査等を実行する。） 事業費（技術開発）＿＿＿＿千円	

（様式 4）

試験経過記録（その1）

任意

串間 営林署

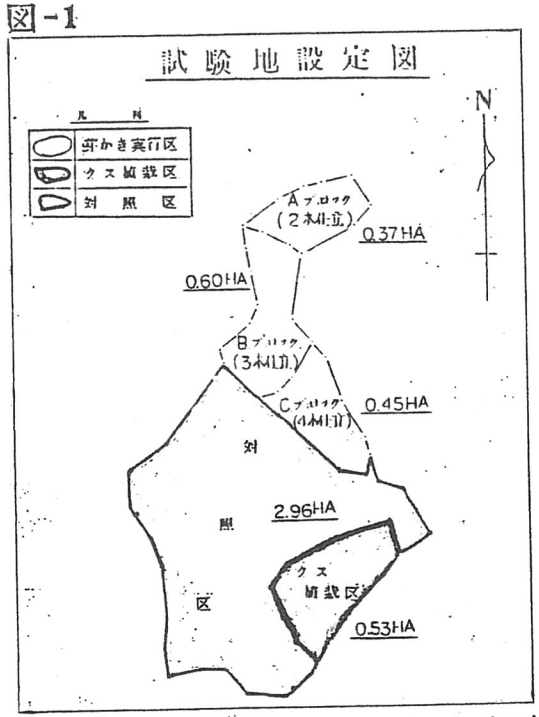
課題	広葉樹優良林分を造成するための施業法

当試験地は，昭和６０年度の立木処分箇所で，前生樹は林齢３６年生の混交率１００％の天然広葉樹林分で，クス・タブ・カシ類が７５％と高く，高温多雨の海岸線に面した温暖地域で，傾斜も緩やかで，標高は１５０～１６０ｍの地点である。

昭和６１年８月上記箇所を，芽かき実行区（Ａ．Ｂ．Ｃブロック）と対照区に区分し，又隣接する昭和６０年度植栽のクス造林地を加え試験地を設定し，《図－１》　Ａブロックは２本仕立，Ｂブロックは３本仕立，Ｃブロックは４本仕立となるよう，芽かきによる本数調整を行った。《表－１》

なお，芽かき実行区については，調査に支障となる雑草の刈払を行った。

図－1



表－1

試験地の区分と調査

試験区			面積	作業と調査
芽かき実行区	Aブロック	2本仕立区	0.37 HA	
	Bブロック	3本仕立区	0.60	・下刈の実行 ・ブロック毎の成長量調査（毎木調査）
	Cブロック	4本仕立区	0.45	・芽かき後の素性の変化と罹病の観察
	小計		1.42	
クス植栽区			0.53	・下刈の実行 ・成長量調査（100本抽出）
対照区			2.96	・標準地による成長量調査（30㎡×6ケ所）
計			4.91	
調査対象樹種　クス・タブ・カシ・シイ・その他広葉樹				

記載要領　1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。